

【三重】急性心筋梗塞死亡率は低下するも、救急搬送等に課題-谷川高士・NPO法人みえ循環器・腎疾患ネットワーク理事長に聞く◆Vol.2

2022年6月24日（金）配信 m3.com地域版

NPO法人みえ循環器・腎疾患ネットワークは、三重ACSレジストリや循環器疾患の市民啓発を中心に活動を展開してきたが、循環器疾患対策基本法の成立を受け、新たな活動に取り組み始めた。同ネットワーク理事長の谷川高士氏（松阪中央総合病院副院長）に最近の取り組みや今後の展望を聞いた。（2022年6月7日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回は[こちら](#)

——これまで急性心筋梗塞を中心に研究支援や市民啓発を展開してきたとのことですが、最近の取り組みについて教えてください。

ご存じのとおり、2018年12月に循環器病対策基本法が成立し、各都道府県で循環器病対策推進計画の策定が進められました。三重県でも、ちょうど2022年3月に同推進計画が発表されたところですが、同基本法の中では急性心筋梗塞以外に、心不全、急性大動脈解離の救急医療体制整備も重要なテーマと位置付けられています。



谷川高士氏

NPO法人みえ循環器・腎疾患ネットワークも、これに呼応して従来の事業に加えて、新たな事業を展開し始めたところです。一つは、昨年度から開始した急性大動脈解離を対象とした「三重急性大動脈疾患レジストリ」の支援事業です。急性大動脈解離の治療は外科手術が基本となりますので、これは三重大学の胸部血管外科が中心となって構築しているレジストリなのですが、三重県CCUネットワークとNPO法人もこれをサポートすることになりました。

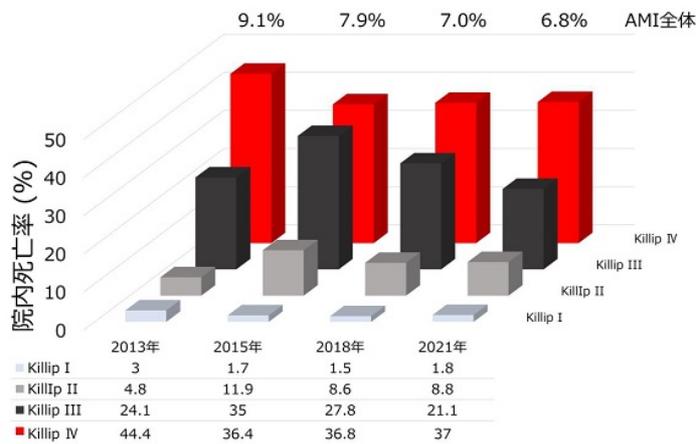
——心不全でも、新しい取り組みを開始するのですか。

心不全対策としては、三重大学の循環器・腎臓内科が心不全管理アプリを開発し、現在、実証実験が行われています。心不全の患者さんがスマートフォンに毎日、体重や血圧、脈拍を入力しておけば、緊急受診が必要な状態になったときにアラームで知らせてくれるというものなのですが、NPO法人としても、このアプリの市民への広報や県内医療機関への導入支援などの形でサポートを開始したところです。心不全も増悪したときに、適切なタイミングで受診することが最も重要です。

——三重県CCUネットワークが結成された背景として、三重県の急性心筋梗塞死亡率が全国平均より高いということがありました。それは改善されてきましたか。

人口動態調査を基にした三重県の急性心筋梗塞死亡率（人口10万人当たり）は、2020年度は男性16.3、女性6.1です。2011年度と比較すると男性で7.7ポイント、女性で4.4ポイント改善しました。ただ、全国平均値も下がっているため、まだ三重県は平均より少し高い状態です。三重ACSレジストリのデータでいえば、急性心筋梗塞の院内死亡率は、2013年 9.1%、2015年 7.9%、2018年 7.0%、2021年 6.8%であり、少しずつ改善に向かっています。

急性心筋梗塞 Killip分類別院内死亡率推移



三重ACLSレジストリ研究の分析による院内死亡率推移（16施設参加）

三重全体として見れば、PCIの実施施設数が不足しているというわけではありません。ただ、東紀州地域で唯一のPCI実施施設だった尾鷲総合病院が医師不足のために、緊急PCIが実施できなくなったといった新たな問題が生じています。

一方で県中部から東紀州地域までの高速道路が開通し、ドクターヘリの運航も開始され、10年前より地域間搬送の時間は短縮されました。東紀州地域からの救急車搬送を受け入れているのは、距離的に近い当院（松阪中央総合病院）など松阪市内の病院で、ヘリ搬送の場合は伊勢赤十字病院か三重大学病院です。それでも搬送時間が1時間を超える場合も多く、搬送中に重症化してしまう例も多く見受けられます。こうした課題にどんな対策を採るのかは、県の循環器病対策推進協議会でまさに議論しているところです。

三重県の場合はCCUネットワークで循環器救急に関わる医療機関と消防、行政の関係は築かれていますから、地域の境界を超えた救急搬送についての話し合いを強化していきたいと思えます。

——市民啓発は今後、どのように展開していこうと考えていますか。

新型コロナウイルス感染症の影響で対面での市民公開講座が開催できず、この2年間はWEB開催中心になりましたが、集客の面で課題が残りました。ご高齢の方だとWEB環境が整っていないことも多いので、工夫していく必要があります。また、若い方とご高齢の方では求める内容も違ってくるでしょうから、そういった点も考慮して情報発信を進めていこうと考えています。

また、数年前から腎疾患に対する啓発活動にも力を入れ始めました。ホームページや市民公開講座でCKDを解説したり、世界腎臓デーのイベントを共催したり、市民にCKDシールの活用を呼びかけたりする活動を行っています。CKDシールは県の慢性腎臓病対策検討会が採用した、腎臓病の患者さんがお薬手帳に貼るシールです。薬剤師による腎機能低下例の用法用量確認や疑義紹介、看護師・保健師・管理栄養士による生活や食事の指導が行いやすくなりますので、その普及に協力していきます。

——医療者向けの講演会開催なども行っているのでしょうか。

回数は少ないのですが、NPO法人として、製薬企業などとの共催で講演会を実施してきました。例えば、本年3月に開催した講演会は「三重県の心腎連関を考える会」と題し、最近、話題の心不全と腎不全の連関をテーマに取り上げました。県内の医療レベルを高めるという意味では医療関係者に向けた講演会をもっと積極的に開催した方がよいのですが、認定NPO法人は広く一般の公益に資する活動をするようになっていきますから、市民への啓発の方が中心になります。

その意味では、心不全管理アプリの市民への広報や医療機関への導入支援は市民の利益と直結しますので、NPO法人としても注力するポイントになると思います。また、レジストリの研究成果の市民へ情報提供、各地域のネットワーク加盟施設が行う講演会の支援など、NPO法人でできる範囲で活動の幅を広げていきたいと考えています。

◆谷川 高士（たにがわ たかし）氏

1992年三重大学医学部卒業後、同附属病院第一内科入局。三重県内の基幹病院、虎の門病院などでの勤務を経て、2011年三重大学大学院循環器・腎臓内科学講師。2014年松阪中央総合病院循環器内科部長、2017年から副院長・心臓血管センター長。2016年のNPO法人みえ循環器・腎疾患ネットワーク設立以来、理事長を務める。

【取材・文・撮影＝大迫拓志】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

